

にいがた労福協

ライフサポートセンター

No.60 2025年1月15日発行

一般社団法人 新潟県労働者福祉協議会

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地2

Tel 025-281-0890 Fax 025-281-0891

E-mail ni-rfk@bz04.plala.or.jp

URL <http://www.niigataken-rofukukyo.com/>

発行責任者 石本伸二

2025年 明けましておめでとうございます

「福祉はひとつ」

～すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、

連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくります～

2025年 新潟県労福協 新春の集い



小林副理事長による乾杯

[illegible]

2025年、今年も
よろしくお願いします

すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、
連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくらせます！



新潟県労福協
理事長 牧野 茂夫

あけましておめでとうございます。

新潟県労福協は、11会員団体、県内10カ所の地区労福協とともに、労働団体・福祉事業団体と連携をはかり、「貧困や社会的排除がなく、人と人とのつながりが大切にされ、平和で、安心して働き暮らせる持続可能な社会」の構築に向け寄与しています。

主要事業であるライフサポートセンターを柱に、生活困窮者自立支援事業などを、行政をはじめ、NPO・市民活動団体等さまざまな団体とのネットワークを強化しつつ、生活上の悩みや課題を抱えた人たちに对する、支援事業を一体となつてすすめています。

日本列島を襲う地震や風水害などの自然災害への対応、長引く円安や原材料価格の高騰から物価上昇が続く、家計を圧迫するなど、取り巻く環境は多

くの課題が山積しております。また、奨学金問題、子どもの教育格差・貧困の連鎖などの問題に対しても、教育費負担軽減・奨学金制度改善に向けたアピール活動やセーフティーネット作り、日本難病・疾病団体協議会の請願書名活動も引き続き取り組みます。

また、労働者自主福祉運動を継承していくための、新しい担い手を育てていく啓発・教育活動も極めて重要です。このため、組織内の人材育成をはじめ、学校教育における労働・金融・消費者教育なども含め、各団体・組織の人材・教材等の資源も相互に活用しつつ、共同の取り組みを広げます。

今後とも労福協運動は、政策や制度の改善を求める社会運動と、労働者自主福祉運動を車の両輪として、「福祉はひとつ」の理念の下、「すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・共同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現をはかります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

2025年 年頭挨拶



労働者福祉中央協議会
会長 芳野 友子

新年明けましておめでとうございます。

日本経済全体が落ち込む中で、光熱費や食品など生活に直結する分野の値上げが続いています。このなかで、2024年の年間出生数は初めて70万人を割り込むことが予想され、最悪のペースで少子化が進行しています。さらには「健康で文化的な最低限度の生活」を保障するはずの生活保護費も段階的に削られ続けるなど、格差や貧困、社会の分断が深刻化しています。

このような今こそ、私たちは、生活困窮者支援の取り組みや、ライフサポート活動、こども食堂の取り組みなど、地域の様々なネットワークで支え合い助け合う、地域共生社会の構築をめざした取り組みを、力をあわせて進めていかなければなりません。

高等教育の負担軽減については、「すべての人が学べる社会へ高等教育費負

担軽減プロジェクト」の取り組みに結集し、「団体賛同・個人署名」の取り組みを進めてきました。多くの方々に協力いただきましたことに、心からお礼申し上げます。通常国会では大学等修学支援法の改正が見込まれています。私たちはこれを機に、修学支援制度の対象範囲の拡大など、高等教育の負担軽減をもとめて、取り組みを強化していきます。

また、今年は国連の定めた国際協同組合年です。改めて労働者自主福祉運動や協同組合運動などの共助の輪を広げるとともに、NPOや市民団体などともつながり、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けた協同組合の実践、社会や経済の発展への協同組合の貢献に対する認知を高める取り組みをもとに進めていきたいと思います。

最後になりますが、2030年ビジョンにおいて確認した「貧困や社会的排除がなく、人と人とのつながりが大切にされ、平和で、安心して働き暮らせる持続可能な社会」を実現するための取り組みを、組織の枠を超えて、労働者自主福祉の取り組みを展開していくことをお誓い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

2025年新潟県労福協

新春の集い



2025年1月7日(火) ANAクラウンプラザホテル新潟において、新潟県労福協主催の「2025年新潟県労福協新春の集い」が各界から215名の参加者のもと、盛大に開催されました。

冒頭、牧野理事長の主催者あいさつの後、花角県知事と井崎新潟市副市長から来賓のご挨拶をいただきました。花角県知事からは「労福協の皆様からは、パーソナルサポートセンター、ライフサポートセンター、フードバンクなど厳しい状況におかれている人に寄り添った活動をしていただいていることに感謝を申し上げます。」との感謝の言葉をいただきました。

その後、鏡開きを行い、小林副理事長(連合新潟会長)の乾杯で祝宴がスタートしました。

アトラクションとして佐藤兄弟による津軽三味線を披露していただきました。迫力のある津軽三味線に参加者は聞き入っていました。

最後は山崎副理事長(新潟ろうきん

理事長)から「今年も勤労者福祉運動に対して結集をお願いします。力を合わせて一歩でも前のステージをめざしてすすんで行きましょう。」との締めあいさつがあり、盛会のうちに終了しました。



牧野理事長



鏡開き



花角県知事



山崎副理事長



佐藤兄弟

花角県知事要請行動

「2025年度（令和7年度）労働者福祉に関する要請書」に基づく申し入れ

11月26日（火）県労福協は、花角知事を訪問し労働者福祉に関する要請書を提出しました。

要請内容は、①東日本大震災・能登半島地震の被災者・避難者支援および防災・減災対策の強化について、②格差・貧困社会の是正、セーフティーネットの強化について、③奨学金制度の拡充・改善と教育費の負担軽減について、

④フードバンク活動の促進について、⑤労働者協同組合法の施行の運用について、⑥「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の施行に伴う対応について、⑦介護福祉政策についての7項目でした。

花角知事からは、「労福協からは新潟県の町村部における生活困窮者自立支援業務や奨学金ネットワークの活動などで生活のセーフティーネットを支えていただいていることに感謝申し上げます。皆様から出された課題や気付きをしつかりと受け止めて、来年度の予算の中で、できるだけ反映できるように取り組んで参りたい。」との回答がありました。

― 出席者 ―

〔新潟県〕 知事・産業労働副部長・しごと定住促進課長・福祉保健総務課長・大学私学振興課長・高等学校教育課長補佐

〔労福協〕 牧野理事長・小林副理事長・山崎副理事長・小野塚副理事長・石本専務理事

中央労福協

第13回ライフサポートセンター実務者・相談員研修・交流会

10月11日（金）中央労福協主催のライフサポートセンター実務者・相談員研修・交流会が東京の連合会館で開催され、全国から会場29名、Web54名の計83名が参加しました。

奨学金問題
全国会議事務局
局長・岩重佳
治弁護士によ



「奨学金返済に関する相談実務」の講演をいただき、自己破産や時効の援用などのテクニカルな内容について正しい認識を解説していただいたほか、実際の相談事例を用いて対応方法について考察を深めました。

その後、グループワークを実施して、都道府県を越えて、参加者相互に事例の共有や相談ストレス対策、スキルアップ・後継者確保対策、運営費用の確保等の多岐にわたる意見交換を行いました。

第7回

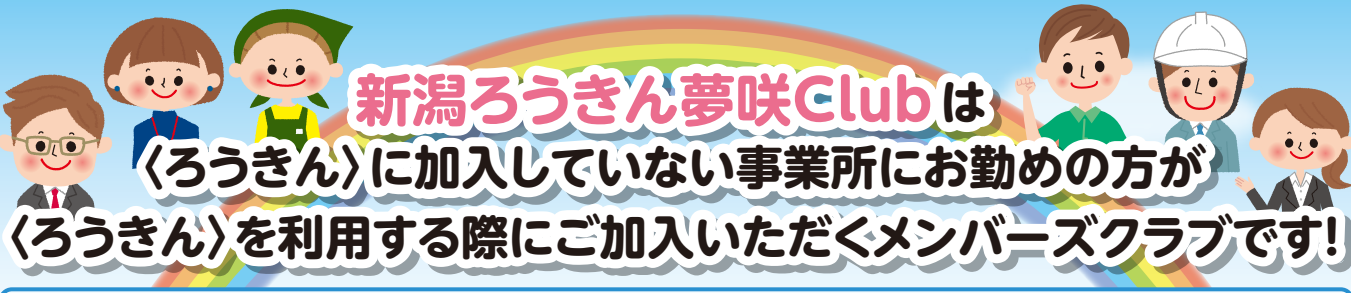
地区労福協事務局長会議

10月15日（火）第7回地区労福協事務局長会議を勤労福祉会館で開催しました。

会議では、①新潟県ライフサポートセンター事業の取り組み状況の報告、②各地区の上半期の活動計画に対する進捗状況について、③下半期の活動予定についての意見交換を行いました。各地区とも参加者や地域のためにな



る内容をめざして、創意工夫を凝らしたライフ&ワークセミナーを予定しており、地域のNPOや市民団体との連携も意識しての取り組みが報告され、地区労福協による地域に根差した活動を今後も強化していくことを参加者全員で確認しました。



新潟ろうきん夢咲Clubは
〈ろうきん〉に加入していない事業所にお勤めの方が
〈ろうきん〉を利用する際にご加入いただくメンバーズクラブです!

ご入会

新潟ろうきんの県内26店舗で入会手続きができます。
 加入申込書は新潟ろうきんの全店舗に備え付けてあります。※入会金や会費は必要ありません

**ご加入
いただける方**

新潟ろうきんとお取引がある、あるいはお取引を予定されている方で、
 以下のいずれかの加入条件を満たす15歳以上の方となります。

- 1 新潟県内に居住または勤務する勤労者の方など
- 2 将来、新潟県内に居住または勤務する予定のある方

**おもな活動と
会員サービス**

- 会報誌「夢咲Club通信」の発行
- 暮らしに役立つイベントなどの開催
- 安心の無料相談ネットワーク（弁護士無料法律相談、健康ダイヤルなど）

ご加入は最寄りのろうきん本支店窓口へ。お問い合わせは新潟ろうきん夢咲Clubまで。

新潟ろうきん夢咲Club

〒951-8113 新潟市中央区寄居町332番地38 新潟県労働金庫本店5階
 TEL 025-201-8765 FAX 025-201-8755
<https://www.n-yume.jp> **新潟ろうきん夢咲Club** 



コープデリにいがた

「あなたらしさ」が選べる生協、 コープデリです。

コープデリは、関東・信越1都7県で335万以上の世帯にご登録いただいている、日本最大の生協です。
 たくさんの宅配サービスや生協があるなかで支持されている理由はきっと、それぞれの“ぴったり”が見つかるから。
 原料へのこだわり、価格帯、家族の人数、etc… どんなニーズもおまかせください。

コープデリなら、つかうほどじぶんらしくなるあれこれが
選べる、見つかる。



コープデリが大切にしている6つのこと



**豊かで楽しい
食卓へ。**
 ふだんの暮らしに必要な
 商品を提供し、
 毎日の暮らしに貢献します。



**安心して
家族へ。**
 提供する全ての食品の
 安全性の確保に
 取り組みます。



**声を
かたちに。**
 組合員さんの声を
 大切にしたコープ商品を
 開発・提供します。



**つながり、
育む。**
 生産者と組合員さんを
 つなぐ「産直」に
 取り組みます。



**「食べる」を
伝える。**
 食育「たべる、たいせつ」を
 通じて食による健康な暮らしを
 提案していきます。



**未来に
つなげる。**
 環境にやさしい
 事業と暮らしを目指します。

ご加入手続きは
簡単!

今すぐ! Webでお申し込み

コープデリ 加入 



こちらからも
アクセスできます

第34回新潟県勤労者駅伝大会

60チーム 総勢547名が参加

11月4日(月)、秋晴れの中で連合新潟・新潟県労福協主催の第34回新潟県勤労者駅伝大会が、新潟市デンカビッグスワンスタジアムをスタート・フィニッシュとし新潟県スポーツ公園内コース(6区間18・4km)で開催されました。

参加チームは60チームで、前年より6チーム増えてにぎやかに開催され、

県下各地から集まった参加者による日頃、鍛えた健脚を競う熱いレースが繰り広げられました。

大会は、牧野大会実行委員長の主催者挨拶に続き、来賓として、新潟県しごと定住促進課野中課長の祝辞の後、チーム名「新光電気スーパードレーサー」代表の早津利久さんが「優勝をめざします。」と力強く選手宣誓を行いました。結果は、見事宣言どおりに優勝を果たされました。

今大会も前回に続き、全国実業団対抗駅伝大会の出場経験もある、走る大工集団「重川材木店陸上部」がゲスト参戦していただき、さらには新潟県駅伝のメンバーからも1チーム参加をいただき、その実力を目の当たりにしました。

一本の「タスキ」をつなぐ駅伝、タスキには目に見えない「絆」や「支え合い」が込められ、まさに働く者の団結と連帯を確認できるものとなりました。これからもアスリートから初心者まで、誰もが自由に気軽に参加しやすい大会をめざし「タスキ」をつないでいきます。来年の参加をお待ちしております。



競技結果は以下のとおりです。

〈総合順位〉

1位 新光電気スーパードレーサー
1時間2分40秒

2位 J P 労組 A

1時間6分28秒

3位 津南町役場 U 40

1時間10分31秒

〈男女混合順位〉

(女性2名以上が実走したチーム)

1位 チーム丸運 B

1時間15分58秒

2位 十日町市役所 Z

1時間19分31秒

3位 ろうきんりくじょーぶ

1時間20分45秒

連合新潟第34回年次大会

社会と未来を変えていく
仲間の輪を広げ、ともに進もう！

10月29日(火) 連合新潟は第34回年次大会を新潟東映ホテルにおいて開催し、代議員、特別代議員など総勢109名が出席しました。

冒頭、小林会長からは、「組織拡大」「実質賃金の向上」「衆議院選挙結果と来年の夏の参議院選挙」の3点について総力を挙げて取り組む決意が述べられました。

大会では、組織の拡大や賃上げを柱とした運動方針、財政、役員の選出など4つの議案がすべて承認されました。



旧年中のご愛顧を感謝いたしますとともに
皆様のご繁栄とご多幸を心からお祈り
申し上げます
本年もよろしくお願いいたします



たすけあいの輪をむすぶ

こくみん共済

全国労働者共済生活協同組合連合会 COOP

新潟推進本部
(新潟県総合生活協同組合)

こくみん共済 NEWS

1524Z013

<新潟ろうきん福祉財団では…>

「ワーク&ライフセミナー」で、
各地域の活動を支援しています！

◆「ワーク&ライフフォーラム」は、2022年度で終了としましたが、
引続き、地域の実態に照らした多様なセミナー開催を応援しています！
本年も、多くの方の参加をお願いいたします！！

◆各地区労福協への支援

<下越、新潟、県央、長岡、柏崎、上越、佐渡>・・・上限50万円

<小千谷、十日町、糸魚川>・・・・・・・・・・・・・上限20万円

※上限内であれば複数回開催 OK！ただし飲食費・人件費は不可。

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地2 勤労福祉会館4階

公益財団法人 新潟ろうきん福祉財団

URL <https://.zaidan-hukushi.or.jp>

地域活動交流集会

11月19日(火)、新潟東映ホテルにおいて「地域活動交流集会」を開催しました。地区労福協役員を中心に56名が参加しました。

第1部では中央労福協の南部事務局長から「中央労福協がめざすものと地区労福協に期待するもの」という基調講演を受けました。

第2部では、長岡地区労福協の今井事務局長から活動報告を受けた後、今



後の地区労福協の活動についてのグループ討論を行いました。

最後に新潟ろうきん福祉財団中川専務理事が「労福協が中心となって様々な地域におけるネットワークをつくり労福協の認知度を高めていくことが重要。今後も信頼を築く活動を継続していこう。」とのまとめを行いました。

地域づくりセミナー

11月28日(木)、新潟ろうきん福祉財団が行っている2024年度NPO等地域活動助成事業に採択された団体



第11回生活困窮者自立支援全国研究交流大会

11月9日(土) 10日(日) 愛知県・東海市において第11回生活困窮者自立支援全国研究交流大会が開催されました。

の役職員の皆さんを主な対象として、「地域づくりセミナー2024」が新潟東映ホテルにおいて47名の参加者で開催されました。

セミナーは2部形式で行い、第1部では、4つの助成団体からの事業の中間報告を受け、選考委員および参加者が様々な質問やアドバイスをを行い、相互理解をすすめました。また、第2部では団体の課題や悩みを解決するため、会場参加者全員が参加する「地域円卓会議」の方式で、全体討論を行いました。セミナー後は6年振りに、参加者を交えた懇親会も開催しました。報告団体

- 特定非営利活動法人
プエルタ・ハル
- 子育て応援サポートセンター
うん・まんま
- 一般社団法人
居住サポートにいがた
- 特定非営利活動法人
マミーズ・ネット

生活困窮者自立支援法が改正され、

制度は次の10年へと足を踏み出す中、「地域共生支援へ広がる課題 だからこそ抱え込まずにつなごう 共にあることを楽しみ前に進もう」をテーマに全国から会場とオンラインを合わせて1500名近くの参加がありました。新潟からは会場4名とオンラインで1名参加しました。

9日の全体会、10日の9つの分科会で熱い議論が交わされ、参加者は刺激を受け、テーマのとおり参加者同士が共にあることを楽しむことができた大会となりました。参加者からは「各地の取り組みや現在の動向を知ることができ大変勉強になった。」「会って交流ができて嬉しかった。」「明日からの元気をもらえた」等の感想が出されました。



中央労福協

第11回加盟団体代表者会議

中央労福協は11月29日(金)、第11回加盟団体代表者会議をWebで開催し、全国から代議員94名と傍聴15名が参加しました。

芳野友子会長から「2024年は能登半島地震をはじめ、全国各地で多くの自然災害が発生しました。中央労福協には事業団体として協同組合が加盟していますが、こうした時にこそ助け合いの協同組合が真価を発揮しており、また、地域・社会の発展に大きな貢献を果たし、高く評価されています。折しも、2025年は国連が定めた国際協同組合年です。世界的には社会の発展、持続可能な社会の構築に当たり、協同組合は必要不可欠な存在と認識されており、さまざまな催しが国内外の協同組合陣営の中で企画・検討されています。中央労福協としても労働者福祉運動を含めた協同組合運動の発展に向け関係団体と連携しながら取り組みを進めて行きたいと考えています。この議論と取り組みに、加盟団体の皆さんもぜひ、積極的に関与いただくようお願いいたします。」とのあいさつがありました。

その後、議案書審議を行い、すべての議案が承認されました。



東部ブロック

第59回定期総会

12月4日(水) 神奈川県横浜市「ワークピア横浜」において47名が参加して東部ブロック第59回定期総会が開催されました。

2024年度の活動報告並びに会計報告・会計監査報告、2025年度の活動方針・予算案が提案・承認されました。

なお、総会終了後に「フードバンク



国際交流

中国黒竜江省総工会との交流団派遣

日中交流協定に基づく定期交流が10月18日(金)～23日(水)に実施されました。

2018年以來の6年ぶりの訪問となりましたが、黒竜江省総工会からは歓迎をしていただきました。両国の労働組合を取り巻く社会・経済情勢等の有意義な意見交換が行われました。

今回の訪問では、ハルビン、チチハル、北京等を訪問しましたが、中国の雄大さや歴史や文化の奥深さ、そして

神奈川の現状と課題」と題して藤田誠事務局長から講演をいただき、フードバンク活動の必要性や地域における可能性を再認識することができました。

発展のパワーを感じました。

来年の中国からの訪問団の受け入れを最後に国際交流を終了することとなりますが、今後も交流の歴史や友情はお互いに大切にして、改善が進みつつある両国の関係を草の根から支えていくことを確認しました。

代表团

団長・牧野 茂夫(労福協)
団員・金子 賢一(連合)

鶴巻 洋介(ろうきん)

森山 真吾(こくみん共済coop)

石本 伸二(労福協)



中央労福協

第7回シンポジウム「女性のひろば」

10月30日(水) 中央労福協主催の第7回シンポジウム女性の広場が東京都内で開催され、加盟団体の女性役職員48名が参加しました。第1部はシン

クタンク「メディアと人権研究所 MAYUMEDIA」代表の渡辺真由子氏を講師に迎え、メディアと人権、ジェンダーの視点からと題して、メディアアリテラシーとは何か、メディアの偏ったジェンダー表現の問題点について講演をいただきアンコンシヤスバイアス(気づかないうちに身についた無意識の偏見)について考察を深めました。第2部では講演を受けてグループごとのディスカッションを行い、それぞれの思いや意見を話し合いました。参加した電機連合新潟小林裕子さんの感想は以下の通りです。

新聞、雑誌などは多分に意見がはっきりしていることは感じ取っていましたが、今回の講演で民放局が、こんなにはっきりと考え方が違い、また知らず知らずのうちにイデオロギーが盛り込まれ、バイアスに影響しているものだと言及しました。朝のニュース番組は、人によってある程度見る番組が決まっているような気がします。自分にとって考え方が同じ番組を無意識に見ているのだと感じました。

ジェンダーの考え方もメディアの作り手は男性が多く、どうしても偏りができてしまうのは、男性の視点が多い

からだということですが。これは、メディアだけではなく、仕事や組織においても同じことが言えるのではないかと思います。

男女平等参画において女性の管理者比率30%目標を掲げられていますが、家事・育児・介護などは、女性がやることとして考える傾向がまだあり、そのため仕事の両立がうまくいかず断念しなければいけない女性もいるのではないのでしょうか。男女問わず、アンコンシヤス・バイアス(無意識の偏見)を外から価値観ではなく、自分(内)の価値観はどういう価値観なのか確認し、大事にして行くことで自分らしく生きていけるのではないかと思います。



国際協同組合年とは



国際年をご存じですか。国連は1957年を国際地球観測年と定めたことをスタートに毎年何らかの「国際年」を設けています。これは、世界に共通する重要テーマについて、各国や世界全体が1年間を通じて呼びかけや対策を行うとするものです。

【2025年は国際協同組合年です】

こうした中で、2025年は、国際協同組合年と定められました。2012年に続いて、2回目です。協同組合をもっと盛んにして、SDGs(持続可能な開発目標)をもっと現実のものとするために、国連は協同組合を評価、重視し、期待を寄せています。また、国連と歩調を合わせて、世界各国の政府や協同組合に、国際協同組合年を活用することを求めています。

日本国内の協同組合においても事業・活動をさらに発展させ、協同組合に対する認知度を高めていく絶好の機会と捉え、政府や関係者の方々と協力しながら、この機会を活かしていきたいと考えています。

国際協同組合年は、協同組合の事業を利用する方、活動に参加する方、そ

して働く方を広げるチャンスとも言えます。

【協同組合を学び、事業や活動を実践し、発信しませんか】

これまでもこれからも、協同組合のことを広く知る、知ってもらう、そして共感や信頼につなげることが大切です。今こそ、次のような3つのステップで、協同組合を学び、事業や活動を実践し、さらにこれを発信しませんか。

1. 学んでみよう
- (1) 国際協同組合年について学び、共有してみよう
- (2) 協同組合とは何か、何を大切にしているか、どのように運営するか、あらためて協同組合らしさ(協同組合のアイデンティティ)を学ぼう
2. 実践してみよう
- みんなで話し合い、つながりの輪を広げ、できるところから始めてみよう
3. 発信してみよう
- 学んだこと、実践していることを発信してみよう。発信することで知ってもらい、地域のつながりの輪を広げましょう。

ついに“全業種”に加入対象が拡大! フリーランスのための労災保険の特別加入

フリホケ

フリーランスのための
安心労災保険

労災保険は、労働者の仕事や通勤中のケガ、病気等に対する国の補償制度です。これまでフリーランスは限られた職種のみ加入対象でしたが、ついに全業種対象になりました。2024年11月1日から、日本労働組合総連合会（連合）が設立した「連合フリーランス労災保険センター」を通じて労災保険への特別加入の手続きができます。

イラスト：小池アミゴ

労災保険の補償内容は？

療養（補償）等給付 仕事や通勤中のケガや病気により療養するとき、無料で治療が受けられます。	休業（補償）等給付 休業4日目以降、休業1日につき給付基礎日額の80%が支払われます。
障害（補償）等給付 障害が残ったとき、年金または一時金が支払われます。	遺族（補償）等給付 仕事や通勤が原因で死亡した場合、遺族の方に年金または一時金が支払われます。
葬祭料等（葬祭給付）	介護（補償）等給付

お問い合わせ

MAIL jimukyoku@jtuc-freelance-rousai.org

TEL 03-5761-8338

連合フリーランス
労災保険センター

ネットからお申込みいただくだけで

ろうきんローンの金利引き下げ!

マイカーローン

便利でラクラク、あなたのカーライフを応援!

ご融資金額は
最高1,000万円

最長10年返済!

保証料0円
(ろうきん負担)

＼ 自動車に関する幅広いお使いみちに対応! ／

自動車購入	修理	カー用品の購入
免許の取得	車検	クレジットなどの借換え

etc.

通常金利
年2.3%
(変動金利)

生活応援金利

年 **1.6%** (変動金利) ～ 年 **1.7%** (変動金利)

教育ローン

合格前からのご相談・事前申込OK!

ご融資金額は
最高2,000万円

最長20年返済

保証料0円*
(ろうきん負担)

＼ 教育費全般の幅広いお使いみちに対応! ／

受験費用	入学金	入居先の敷金・家賃など
授業料	留学費用	他金融機関の教育ローンからの借換え

※そのつど借入型(カード型)で専用カード利用期間中については融資金利に含まれています。 etc.

通常金利
年2.68%
(変動金利)

生活応援金利

年 **1.8%** (変動金利) ～ 年 **1.9%** (変動金利)

※金利適用条件・項目は、金利情勢等により見直す場合があります。※審査結果により、ご希望に添えない場合があります。※保証人をご用意いただくことにより、ご利用いただける場合があります。※店頭またはホームページで返済額の試算をいたします。※詳しくは店頭にて説明書をご用意しております。※表示金利は2024年11月1日現在。

まずは**24時間受付**で**審査もスピーディーな****ネットカンタン仮申込**で!

審査結果ご連絡後の**キャンセルもOK!** 本申込みではありませんのでお気軽にご利用ください。



古市佳央氏

佐渡地区

10月6日(日) 2024年佐渡地区ワーク&ライフセミナー「世界一幸せな歌う講演家 古市佳央」を開催しました。当日は日曜日にも関わらず52名来場され、古市さんの歌を交えながらの「幸せ」についての講

地区労福協からの たより



演をお聞きいただきました。古市さんは16歳の時バイク事故で全身大火傷を負い、33回の皮膚移植手術と3年間の入院生活の経験から「生きる喜び」「幸せな人生」を語り伝える活動を行っています。

「事故後、自分で自分の顔を見ていられず、元に戻れないなら死んでしまいたかったが、母はこれまでと変わらず接してくれた。母がいたから死ななくてよかった。」「同じ病棟の患者さんが亡くなり残された家族の悲しむ姿を見て、生きているだけで悲しませていないことに気づいた。」「人は外観が違おうと好奇の目で見てくるが、自分は明るく笑顔で誠実に努めた。」など、どうしたら自分自身「いい人生」だったと振り返られるかを問い、たどり着いた答えが。

一. 当たり前の幸せに自分で気づく。
二. 人の良いところを捜してみる。
三. 人には笑顔や微笑みで接し、相

手を応援する心を持ち合わせる。
四. ありのままの自分を認めてもらう。
五. 「ありがとう」と発し、感謝の心を持つこと。

自分は特別な才能を持っていたわけではなく、講演も体験したことだけを話してきた。でも、参加した人からお礼を言われた。「ありがとう。勇気をもらえた。」と。「何者にもならず、今のままでいいよ。」とも。

今の日本は独居家族、核家族で人間関係が限られてしまっている。楽しく生きるためには、もっと友達を作るしかない。そのためには「笑顔」「挨拶」「相手を褒める」新たな人とのつながりを作ることでは変った。あなたも変わる。

時折、涙ぐむ人もおり、みなさん「しあわせ」を考える一時を過ごしていただけでした。

下越地区

11月16日(土)、新発田市新潟県職業能力開発短期大学校多目的ホールにおいて、下越地区労働者福祉協議会主催のワーク&ライフセミナーを開催しました。参加者65名、一部映画「医師中村哲の仕事・働くということ」カラー47分、この映画は、21年の歳月かけて中村哲医師を記録



川原隆哲氏

してきた日本電波ニュース社に依頼し、働くことと仕事観に焦点を当てて作られた作品です。中村哲医師は、1946年、福岡県生まれ。1973年に九州大学医学部を卒業、国内の病院勤務を経て、1984年にパキスタン、ペルシャワールのミシオン病院に赴任した。2003年「アフガン・緑の大地計画」用水路建設開始、2019年12月4日、何者かの凶弾に倒れる。享年73歳。

第二部講演会 協同労働って何？「中村哲の活動から考える」60分講師 川原 隆哲氏(労働者協同組合ワーカーズコップ・センター事業団北陸信越事業本部長)講演のポイ

ントは、①「医師中村哲の仕事、働くということ」で思うこと、②市民が行う仕事おこし③協同労働ってなに④市民が運営する労働者協同組合の歴史の解説⑤さまざまな市民事業への立ち上げ支援について講演していただきました。多くの市民が参加して頂き、今後下越地区労福協としてワーク&ライフセミナーを企画していきます。

長岡地区

ながおかワーク&ライフセミナー

第1講座開催報告

《こどもかいぎ》上映と能登半島被災地支援報告

このセミナーは、連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会の実現をめざし、毎年長岡地区労働者福祉協議会・長岡地区労福協が主催し、今年7講座開催する予定です。

第1講座は、「長岡こども・地域食堂ネットワーク」が企画し、11月2日(土)、長岡市立中央図書館において開催しました。セミナーはネットワークの長谷川さんの司会進行で、主催者を代表して矢島長岡地区労福協会長から「長岡地区労福協は、地域の中で、わたしたちがどうつながりを得ていけるか。生活者の

目線をつながりを持つていくために、セミナーを行っている。今年は7講座を計画している。今日も楽しみに。」と挨拶がありました。

最初に、こどもたちが対話すること、こどもたちの多様な力が伸びていくと考えられて作成した映画《こどもかいぎ》を上映しました。

この映画は、豪田トモさんが企画、監督した映画で、保育園に通う子供たちが「こどもかいぎ」を開き、保育士が提供する課題について自由な話し合いを行っている様子など上映したものです。

こどもたちの奇想天外な発想とまっすぐな言葉に思わず笑い、ハッ



矢島会長

とさせられます。こどもたちは、親から離れ、初めての保育所経験です。小さなこどもたちが、《こどもかいぎ》を通して、会話する大切さ、対話を通してコミュニケーション力の原点を気づかせてくれた映画でした。

私たち大人は対話することを忘れていないか。大人はきちんと対話をしているのか。《こどもかいぎ》をとおして気づいたことでした。

次に長岡こども・地域食堂ネットワーク佐竹代表から「出張こども食堂in輪島」能登半島被災地支援報告会」を開催し、現地への支援活動についての報告を受けました。

長岡こども・地域食堂ネットワークは、長岡市内で活動している23か所のこども食堂で活動している仲間の緩やかなネットワークです。

小千谷地区

10月19日、連合小千谷支部と小千谷地区労福協の合同イベントとしてライフプランセミナーを開催。こくみん共済coopから講師を迎え、「交通安全セミナー…自動車保障の考え方」についてご講演をいただきました。

自動車同士の交通事故は2分に1件発生しており、50年間運転すれば



講師を務めたこくみん共済・辺見(へんみ)さん

5人に1人は交通事故に遭う確率です。事故に遭った際、自賠責共済(保険)だけでは補償の対象も金額も十分とは言えません。昨今の高額な賠償金額に備え、人身傷害補償、対人・対物賠償を備える事は今や常識となっていますが、意外に知られていないのが弁護士費用等補償特約です。過失割合0% (自分に非が無いケース)においては、事故担当者が間に入って示談交渉する事が業務上対応できず、自分で示談交渉しなければなりません。マイカー共済なら特約として付帯できるので、是非ご検討下さい。

県央地区

「県央地区労福協」は、三条市勤労青少年ホーム（ソレイユ三条）内に事務所を置き活動しており、毎年行われる「ソレイユ祭」で労福協も参加し、「フードドライブ」を実施しており地元の「フードバンクさんじょう」へ届けています。

11月23日（土）には「県央ワーク&ライフセミナー」を開催。一般市民25名を含め104名の参加がありました。「子どもの貧困とフードバンク第3世代」と題して新潟フードバンク連絡協議会事務局長の小林 淳氏からの講演の後に、県央地域で活動するフードバンク、こども食堂、こころのケア、障がい者福祉



のNPO団体等（12団体）の活動発表を行い、参加者からは「県央地域にもフードバンクやこども食堂が増えており熱い思いが伝

わってきて元気を貰えた」「心のケアなどの活動も聞けて良かった」などの声をいただきました。

新春の1月9日（木）には恒例の「新春賀詞交歓会」を予定しております。

これからも労福協の構成団体は もちろん、各自治体や社会福祉協議会、NPO団体、子ども食堂など、地域と連携し、会員交流、地域貢献に努めて参ります。

上越地区

12月5日（木）に上越地区労福協・連合上越共催による「ワーク&ライフセミナー（地域活性化フォーラム）」を、上越市市民プラザで開催しました。

今回は「多様な人材が働く職場とダイバーシティ」と題し、「NPO法人しごとのみらい」竹内義晴理事長をお招きし、ご講演いただきました。多様な人材が働く職場（チーム）の仲間が、ストレスを感じることなく仕事を遂行するため、ご自身の経験談を交えてのコミュニケーション術や、世代間ギャップの対処法、実演を交えた傾聴手法の重要性など、ゆったりとした雰囲気の中で学ぶことができました。



加えて、ご自身が現在取り組んでおられる、行政や諸団体と連携した人口減少問題に関する取り組みや、災害時に於けるコミュニケーションツールの開発なども講演頂き、地域が抱える課題についても学ぶことができ、とても有意義なセミナーとなりました。

糸魚川地区

【2024ワーク&ライフセミナー】
12月11日（水）ヒスイ王国館にて「2024ワーク&ライフセミナー」が36名の参加のもとで開催されました。

今回のセミナーは「参加者が地域活動に触れたり、話し合ったりすることで、地域の課題を自分事として考えるきっかけとする」ことを目的としました。

ファシリテーターとして「NPO法人みらいずworks」代表理事 小見まいこ様をお招きしました。

前段では糸魚川地区で子育て支援

をしている「NPO法人すいみい」と産後ケアセンターを運営している「NPO法人Palette」の2団体から活動報告をしていただきました。

その後、4人1組でグループワークを行い参加者が地域で関わっている「活動」や「役割」と「その課題」そして「今後地域でやってみたいこと」について対話を進めていきました。ワークでは4人が円座になって1メートルの丸い段ボールの板（通称えんたくん）を膝に乗せ各自の意見を付箋紙に書き「えんたくん」に貼り付けていきました。4人の距離感とその場の雰囲気良く会話が弾み、どのグループも大いに盛り上がっていました。

参加者からは「地域の中で自分が知らない部分に気づけ、考えさせられることが多かった。」や「地域活動を知り、気づきをもたえらえるセミナーでした。元気をもらいました。」などの感想をいただきました。



調査・研究事業報告

2024年度連載／第4回

持続可能な社会と働き方を考える
―働き手確保と男女間格差の問題など―

公益社団法人 新潟県自治研究センター

少子・高齢、人口減少が続くなかで、持続可能な社会と働き方について考察してきたが、連載第2回では、「縮小社会」と価値観の転換を、第3回では働き手不足の現状とDX化という観点からの論考をまとめた。

今回は、人口減少社会における働き手確保などの課題を切り口に、その原因となる社会的課題とそれを乗り越える政策転換を論じた。長沢正一氏の「労福協・連合、民主的団体がめざすべき社会、めざすべき市民生活は」を中心に紹介したい。

【男女間格差是正を】

長沢氏は、日本の人口減少を生産年齢人口の減少として捉えたとき、それが「社会を維持するための『支え手』の減少であり」、「政治や行政はもとより労働者福祉協議会や労働組合等の団体も危機意識を持ちながら対応する必要がある」とする。そのうえで、特に重要な問題として論じているのが、男

女間格差についてである。

たとえば、女性の労働力率を年齢層別にグラフ化した際に、20代後半から30代を底とした「M字カーブ」を描くことが、日本の特徴としていわれてきたことはよく知られている。近年、M字の谷は浅くなり、改善の傾向にあるとの理解がされているが、長沢氏は「要因は晩婚化によって未婚有業者が増えていることによるものであり、結婚・出産した女性が継続就業あるいは再就業できる環境が整ってきたことによるものとはいえない状況がある」と指摘する。

また、男女間賃金格差についても大きな課題であるとし、OECD加盟国の賃金格差をグラフ化しながら、「最近の10年間で改善が見られるものの、韓国に次いで高い水準」である現状を明らかにしている。

女性活躍推進法では「男女の賃金の差異」が情報公表の必須項目（常時雇用する労働者が301人以上の事業主

が対象）であるが、これとあわせて、「賃金額は役職や仕事の責任、勤務年数などと密接にリンクしていることから、役職（管理職）への女性登用など合わせて着目しなければならない」点を強調している。

現在、いわゆる「年収の壁」の議論も国政で議論的となっている。長沢氏はこれに関連して、「旧来の性別役割分業的労働と短時間労働のセットで、結果として非正規やパート労働者の賃金を低く抑えることになっている」「現行のあり方を捉え、「抜本的に制度を見直し、かつ女性の賃金を引き上げて男女間格差を縮小する時だ」と論じており、タイムリーな問題提起ともなっている。

【「より良い暮らし」の指標から】

OECDが発表する「より良い暮らし指標」というものがある。

GDPだけでは測りきれない、暮らしの11の要素（「住宅」「収入」「雇用」「共同体（社会的つながり）」「教育」「環境」「市民参画」「健康」「人生の満足度」「安全」「ワーク・ライフ・バランス」）を基にした加盟国の幸福度を示すものであるが、残念ながら、日本はOECD加盟国の平均を下回っている。特に平均を下回っているのが、「収入」「ワーク・ライフ・バランス」など5項目である。これを長沢氏が指摘するもうひとつの論点でもある、「政

策の支援対象の偏り」とあわせて考えるとわかりやすい。

現在の困難な社会状況が作り出されてきた「原因」と「結果」を探れば、人口減少の原因である少子化に至った根本原因は、「働く者が安心して働き暮らせる社会ではなくなったことにある」とする指摘も重く受け止めたい。「失われた30年をとりもどす」との言葉もあるが、その意味でも、「働くことを軸とする安心社会」は私たちのめざすべき社会像であり、論稿全体が長沢氏から労働団体へのエールともなっている。

また、拙稿「持続可能な地域づくり政策と働き方についての課題―ワーケーションなどの『新しい働き方』とワークルール教育の観点から―」も掲載していただいている。いわゆる「ポストコロナ」の働き方など、社会状況が変化するなかで、ワークルール教育の重要性などについて述べており、あわせて参照いただければ幸いである。

今年度も貴重な紙面を頂戴し、報告書の内容紹介の機会を与えていただいたことに感謝を申し上げますとともに、みなさまからの引き続きのご指導ご協力をお願いして連載のむすびにかえたい。

（文責・新潟県自治研究センター

齋藤 喜和）

今後の日程

1月	16日(木)	長岡地区ワーク&ライフセミナー (長岡市アオーレ長岡市民交流ホールA)
	19日(日)	民団新潟県本部新春の集い (新潟東映ホテル)
	23日(木)	新潟市PS第10回支援調整会議 (勤労福祉会館)
	23日(木)	新潟地区労福協新春のつどい (新潟東映ホテル)
	29日(水)	十日町地区旗開き (十日町市 松喜屋)
	29日(水)	中央労福協第6回幹事会 (Web)
2月	1日(土)	長岡地区ワーク&ライフセミナー (長岡市長岡市立劇場大会議室)
	14日(金)	第16回勤労福祉会館長期修繕計画策定・検証委員会 (勤労福祉会館)
	15日(土)	長岡地区ワーク&ライフセミナー (社会福祉センター・トモシア)
	27日(木)	新潟市PS第11回支援調整会議 (勤労福祉会館)
	28日(金)	地方労福協会議 (石川県・金沢市)
3月	2日(日)	奨学生の成果報告会 (新潟ユニゾンプラザ)
	17日(月)	東部ブロック幹事会 (新潟東映ホテル)
	21日(金)	地区労福協事務局長会議 (勤労福祉会館)
	22日(土)	長岡地区ワーク&ライフセミナー (ニューオータニ長岡)
	24日(月)	第150回理事会 (勤労福祉会館)
	27日(木)	新潟市PS第12回支援調整会議 (勤労福祉会館)
	27日(木)	ニピイ第4回理事会 (東中通ビル)

編集後記

「現在は、VUCA(ブーカ)時代」であるという言葉聞いた。元々冷戦時代の軍事用語に由来する言葉だそうだが、「Volatility」「Uncertainty」「Complexity」「Ambiguity」という単語の頭文字を取ったもので、「先行きが見通せない曖昧で困難な状態」を示すものと言われている。

確かに私たちが生きる世界は、これまでと比べて変化が激しく予測のできない圧倒的に不確実・不安定で危険が多い時代になってきている。しかし、見方を変えればとてつみな

い可能性に満ちた時代ではないだろうか。すべての働く人の幸せと豊かさをめざすという方向性を見失わず、勇気を持って、力を合わせて取り組めば、私たちがめざす理想の社会を実現できるはずだ。

少子化、子育て、教育、高齢化、医療、介護、貧困、環境、過疎化、農業問題、ひきこもりなどの問題は、地域全体が連携して取り組むことが大切だ。県内各地のワーク&ライフセミナーで様々なNPOや市民団体の皆さんの話を聞くことができた。社会変革をしようという志を持った人たちの想いに魂をゆさぶられた。私たち労福協のめ

ざしていることもつきつめれば社会変革だ。

国連は2025年を国際協同組合年(IYC)とすることを決定した。生産と消費、食料安全保障、気候変動対策、地域の人々への医療・福祉、働きがいのある人間らしい仕事の創出、すべての人が参加できる社会づくりなど、様々な分野で持続可能な開発目標に貢献している協同組合を評価し、その認知の向上と協同組合の振興に取り組むとしている。

ろうきんやこくみん共済coop、コープデリも協同組合であり、その活動の意義を再確認したい。労福協も協

同組合が地域社会の課題解決やSDGsへの貢献などの公益的役割を果たしていることを発信し様々な組織と連携をしながら包摂的な社会の構築をめざしたい。

今年こそ争いごとがなくなり笑顔があふれる素晴らしい一年になりますように。
(新光町の疾風怒濤)

